

和歌山だより

2026年 第189号
(令和8年)



熊野古道中辺路 道休禪門地蔵（田辺市）

水呑王子から伏拝王子までの道中にある「道休禪門地蔵」。当時、熊野詣は命がけの旅であり、道半ばで行き倒れた参詣者もいたことから、その方々の供養のため建てられたお地蔵様です。お地蔵様が寒くないようにと、地元の人たちがわらぼうしをかぶせてくれています。（写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟）

CONTENT

1 知事メッセージ · · · · ·	p. 1
2 和歌山県政トピックス · ·	p. 2 ~ 11
3 お知らせ · · · · · · ·	p. 12 ~ 20
4 ふるさと歳時記 · · · · ·	p. 21



貴志川線存続への新たな挑戦

貴志川線は、和歌山市と紀の川市を結ぶローカル鉄道で、地域住民の日常生活を支える交通手段として、また「たま駅長」で有名な県を代表する観光資源として、海外でも注目を集め、年間約170万人の方が利用しています。

20年前に、運行事業者の撤退により貴志川線は廃線の危機に晒されました。そこでまず、「貴志川線の未来を“つくる”会」による地道で熱心な活用促進等の活動。さらには、和歌山電鐵の参入による再生。加えて、和歌山市、紀の川市及び県による鉄道施設の修繕への支援などにより最近まで運行を行ってきたところです。

コロナ禍以降、近年は通勤・通学利用者の減少に加え、物価高による運営費の増大などにより、和歌山電鐵の経営は厳しい状況となっています。そういった中、今後も地域住民の生活交通を守る必要があります。そこで、列車の運行（上）は鉄道事業者が行い、線路や駅舎といった鉄道施設（下）は自治体が保有・管理する「上下分離方式」への移行をめざし、和歌山電鐵、和歌山市、紀の川市及び県の4者で協議を開始しました。

「上下分離方式」により鉄道事業者は安全運行に専念することが可能となり、民間の発想でサービス向上や観光誘客などをより一層充実することができます。貴志川線を単に残すのではなく、貴志川線を活かした沿線のまちづくりに寄与されることを期待しています。また、皆様方にも「乗って残そう」の思いを持ち続け、日々の生活のなかで積極的に鉄道を利用していただきたいと思います。

地域、事業者、行政が一体となった貴志川線存続への新たな挑戦が始まります。

和歌山県知事 宮崎 泉



1/6 定例記者会見にて

●「令和7年度和歌山県文化表彰」の受賞者が決定しました

県では、1964（昭和39）年度から文化の向上発展に特に顕著な功績のある個人や団体を表彰することにより、和歌山県の芸術文化の振興を図ることを目的として和歌山県文化表彰をお贈りしています。

62回目となる今回の受賞者の皆さんと業績及び経歴は次のとおりです。

*50音順・敬称略・（ ）内は年齢(2026(令和8)年2月2日現在)及び出身地

文化賞 文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方



おかだ まさじ
岡田 全司
(76歳・湯浅町)

県立耐久高等学校出身。和歌山県立医科大学を首席で卒業後、大阪大学大学院に進み、国立白浜温泉病院（現在の南和歌山医療センター）の勤務を経てワシントン大学フレッド・ハッチンソン癌研究所に留学。癌細胞、結核菌やウイルス感染細胞を死滅させる重要なキラーT細胞を活性化させるキラーT細胞分化因子を世界に先駆けて発見した。帰国後も、画期的なヒトT細胞クローニング確立法を樹立したほか、インターロイキン6の発見につながるB細胞分化因子の発見など、世界の免疫学進展に大きく貢献した。また、氏が手がけた結核治療ワクチン（HSP65DNA+1L-12DNA）は多剤耐性結核患者に臨床応用され、結核菌が0個となる画期的な治療効果をもたらすなど、感染症対策医療でも貢献している。

氏は我が国を代表する結核ワクチン及び免疫研究者であり、その業績は世界的で本県の誇りである。

文化功労賞 文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方



さかえはら とわお
栄原 永遠男
(79歳・東京都)

飛鳥時代から奈良時代を中心とした日本古代史を専門とし、正倉院で保管されてきた「正倉院文書」や木簡、東大寺、紫香楽宮の研究で知られる。

大阪市立大学（現在の大坂公立大学）で教鞭を執る傍ら、開県100年を記念した『和歌山県史』の編纂事業に携わった。その最終巻として1994(平成6)年に刊行された通史編『原始・古代』においては、紀伊古代史に係る複数の章を担当し、飛鳥時代から平安時代の紀伊国の政治状況や経済状況、都との交流状況等について分かりやすく執筆した。さらに、史料編『古代史料一』でも古代史料の編纂を担当した。なお、2004(平成16)年には、研究の集成として『紀伊古代史研究』（思文閣出版）を出版した。

氏はわが国の古代史研究を通じて、当時の大和政権において古代の紀氏や紀伊国が大きな存在感を有していたことを県内外に広く知らしめるなど、学術面から本県の文化振興に大いに貢献されている。



たかす ひでき
高須 英樹
(77歳・東京都)

植物生態学を専門とし、2014(平成26)年度から2021(令和3)年度まで和歌山県立自然博物館の館長を務めた。本県の植物分布状況に詳しく、その専門的見地から本県の複数の審議会等において委員を務めるなど県政にも大いに貢献した。特に、絶滅が危惧される動植物を明らかにするため県が発行する「和歌山県レッドデータブック」の作成及びその後の改訂作業に携わった功績は大きい。改訂の全体方針に関する事項について各分類群の専門家による選定作業を進めるために2016(平成28)年に設置された「生物多様性和歌山戦略推進調査会」では座長を、植物・植物群落専門部会では部会長を務め、改訂作業に尽力した。

和歌山県の植物の魅力を広く伝えるとともに、その多様性を守るために長きにわたり活動してきた功績は誠に多大である。

文化奨励賞 すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方



いまよし いたる
今吉 格
(45歳・兵庫県)

中学・高校時代の多感な時期を橋本市で過ごす。大学院で博士号取得後、哺乳類の成体脳においても、神経幹細胞がニューロン（生物の脳を構成する神経細胞）を産生し続けるという現象「ニューロン新生」の高次脳機能に果たす役割の解明等を研究した。

これまで、光を用いて神経幹細胞の増殖とニューロン分化を人工的に操作する新しい技術の開発のほか、老化した神経幹細胞を若返らせる研究等に成功した。それらの研究成果は高く評価され、数々の受賞歴を誇るとともに、世界的な学術誌にも論文が掲載されている。

氏が取り組む研究は、将来的にはヒトの神経疾患や認知症などの治療に応用できる可能性があり、今後一層の活躍が期待されている。



かなたに こうぞう
金谷 幸三
(59歳・兵庫県)

16歳の頃から数々のギターコンクールで優秀な成績を収め、高校卒業後は、フランス国内最高峰の音楽院として知られるパリ国立高等音楽院のギター科にトップの成績で入学。その後、パリ国際音楽大学に移り、首席で卒業。1990(平成2)年に帰国後、スタジオワーク、劇伴、CM音楽、演劇作品に参加。一時音楽活動を休止するも、1999(平成11)年に再デビューし、現在は、本県を拠点に演奏活動を続けながら、後進の育成にも尽力している。

また、通常の6弦ギターのほか、世界的に珍しい11弦ギターの演奏にも取り組み、2012(平成24)年には全編11弦ギター演奏によるアルバム「#失われし望み」を発表し、音楽専門誌等で高く評価された。

卓越した演奏技術から生まれる情感あふれる美しいメロディーは、人々に深い感動を与えており、今後もより一層の活躍が期待されている。



こてら かな
小寺 香奈
(48歳・大阪府)

12歳でユーフォニアムと出会い、東京藝術大学大学院を修了。

個人としての演奏活動のほか、国内各地のオーケストラや吹奏楽団での客演演奏も多く、卓越した演奏技能が高く評価される。

2014(平成26)年からリサイタルシリーズ「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」を開始し、現代音楽作曲家との協働により、ユーフォニアムのレパートリー開拓に取り組み、新しい作品を次々に発表。

和歌山大学教育学部で准教授として後進の指導にあたるとともに、地域のこどもから大人までを対象とする「わかやま金管楽器練習会」を定期開催するなど、本県の文化振興に大きく貢献している。

高度な演奏技術を持ち、ユーフォニアムの新しい表現と可能性に果敢に挑戦する氏は、今後より一層の活躍が期待されている。

受賞者の皆さんとのこれまでの取組に深く敬意を表するとともに、今後ますますの御活躍を期待いたします。県では、引き続き、芸術文化の振興に全力で取り組んでいきます。

●「令和7年度和歌山県名匠表彰」の受賞者が決定しました

県では、1974（昭和49）年より、県内の伝統ある貴重な工芸品や生活用品の製作等の技能を守り、地域社会における技術文化の向上発展に功績のある方に和歌山県名匠表彰をお贈りしています。52回目を迎える今年度の受賞者を、日高町にて長年にわたり黒竹^{かなさきあきひと}製作に励まれている金崎昭仁氏に決定しました。

1958（昭和33）年、日高町に生まれた金崎氏は、1984（昭和59）年から家業であった黒竹業に従事し、以降父・昭一郎氏の背中を見ながら自身の黒竹製作の修行を積み、現在に至ります。

日高町原谷地区では、明治時代初期より黒竹の植林が始まり、昭和の終わりには全国一の生産地として名を馳せました。しかし、住宅様式の変化による和室需要の減少や、鹿の食害による竹林の荒廃などにより、生産者の多くが廃業し、現在では、金崎氏が代表を務める有限会社金崎竹材店が国内唯一の黒竹生産工房として、その伝統を守り続けています。

金崎氏は、竹の伐採から選別、乾燥、直火による油抜き、艶出しまで、すべての工程を一貫して行い、長年の経験に基づく感覚と技術で高品質な黒竹を製作



完成した黒竹

しておられます。その黒竹は、色艶・耐久性ともに優れ、全国の神社仏閣や地元の民芸品にも使用され、更には床柱^{とこばしら}・茶道具・装飾材としても高い評価を受けています。

また、後継者の育成や技術の継承にも力を注がれ、地域の小・中学生を対象とした体験学習を開催し、黒竹の歴史や文化を伝える活動も続けておられます。

近年では、黒竹林の保全・再生や耕作放棄地の活用を通じて、地域産業の持続可能な発展にも尽力されるとともに、大阪・関西万博2025への出展を通じて、和歌山の黒竹文化を世界へ発信するなど、その活動の幅を広げておられます。

このように、熟練の技を持った技術者としてだけでなく、和歌山県で受け継がれてきた黒竹産業を後世に引き継ぐために非常に重要な役割を果たされている氏の功績は多大なものです。

県では今後も、県内に伝わる素晴らしい技術文化を絶やさぬよう、顕彰事業をはじめ、様々な施策に取り組んでいきます。



黒竹の成形を行う金崎氏

● 「令和7年度和歌山県農林水産業賞」表彰式を開催しました

2025（令和7）年12月5日に「令和7年度和歌山県農林水産業賞」表彰式を開催し、10名の方々を表彰しました。

県では、本県の農林水産業及びこれに関連する産業の振興や発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、その業績が特に優れ、他の模範となる個人及び団体を讃えるため、「和歌山県農林水産業賞」を創設し、今回を含めて1,322の個人・団体を表彰してきました。

式典では、受賞者お一人お一人に知事から表彰状と記念品をお贈りしました。知事の式辞に続き、藤田茂太郎さんが受賞者代表として、受賞の喜びとともに、「農林水産業の振興、そして地域の発展のため、引き続き精進していく」と力強い決意を述べられました。農業、林業、水産業それぞれの分野において、強い責任感と信念をもって、先人から受け継がれてきた技術や産地を守り続けるとともに、新しい道を切り拓いてこられた皆さんのお姿に頬もしさと誇らしさを感じました。

農林水産業は、高齢化等による担い手不足をはじめ、農業では気候変動による農産物の品質や収穫量への影響、林業では成熟している人工林資源の活用、水産業では水産資源の減少など、様々な課題を抱えています。

和歌山県は第一次産業の県であることから、地域経済を支える基幹産業である農林水産業の更なる発展なくしては成り立たないとの思いを持って、全力で取り組んでいきます。

■令和7年度和歌山県農林水産業賞受賞者の皆さん（50音順・敬称略）

受賞部門	受賞者氏名		
農業部門 (6名)	おかだ 岡田 敦雄 (65歳)	ふじた 藤田 茂太郎 (78歳)	しげたろう
	たぐち 田口 則男 (75歳)	まつもと 松本 弥 (64歳)	ひさし
	たばた 田端 修治 (77歳)	やまな 山名 純一 (70歳)	じゅんいち
林業部門 (2名)	たけうえ 竹上 光明 (49歳)	まつもと 松本 晋平 (58歳)	しんpei
水産業部門 (2名)	なかた 中田 よしかず 善和 (73歳)	ひがし 東 のぶよし 信義 (73歳)	のぶよし



受賞者の皆さんと知事

●山西アカリさん、小西博之さんが和歌山県観光大使に就任しました！

県では、本県の優れた自然、歴史、文化、食等の魅力を広く県内外にPRしていただくため、「和歌山県観光大使」を委嘱し、観光客の誘致促進につなげているところです。

この度、歌手の山西アカリさんに和歌山県観光大使に御就任いただくこととなりました。

山西さんは、和歌山県有田生まれで、有田みかんアンバサダー（2022（令和4）年）、有田郡

町村会観光大使（2023（令和5）年）にも就任され、地域の魅力を発信されています。2017（平成29）年に演歌ガールズグループ「水雲-MIZMO-」のメンバーとしてメジャーデビュー。2022（令和4）年に「拝啓 みかんの里」でソロデビュー後、ふるさと和歌山への思いが込められた望郷演歌「紀ノ川よ」をリリースされています。

最近では、木梨憲武さんプロデュース、所ジョージさん作詞・作曲による楽曲「道しるべ」を昨年7月、さらに9月には3枚目のシングル「瑞穂の国」をリリースされるなど、現在、TVやラジオで活躍中です。



小西博之さんと知事



山西アカリさんと知事

そして、俳優の小西博之さんには、2012（平成24）年から「和歌山県ふるさと大使」として御活躍いただいておりますが、制度改正に伴い「和歌山県観光大使」に名称を統一したことから、改めて委嘱させていただきました。

小西さんは、熊野古道の地和歌山県田辺市生まれで、愛称「コニタン」として多くの方に親しまれています。大学卒業後、NHK中学生日記のオーディションに合格し、体育の先生役でデビュー。その後、バラエティ番組「欽ちゃんの週刊欽曜日」のレギュラーとして抜擢され、欽ちゃんファミリーの一員として活躍。また、ウルトラギャラクシー大怪獣バトルでZAP隊長・ヒュウガ役を演じるなど俳優としてドラマ、映画へ数多く出演されています。

また、腎臓癌の大手術の後、仕事を行えるまで回復した自身の経験から、闘病体験や命の大切さを語る講演活動も行い、生きる希望と勇気を届け続けています。

県では、山西アカリさん、小西博之さんの御協力をいただきながら、これからも和歌山県の魅力をより多くの方に伝えていきます。

●メキシコ（メキシコシティ）及びアメリカ（フロリダ州）を訪問しました

宮崎知事は、2025(令和7)年11月7日(金)～11月13日(木)の日程でメキシコ（メキシコシティ）、アメリカ（フロリダ州）を訪問しました。

(1) メキシコ メキシコシティ訪問 11月7日（金）～9日（日）

中央学園視察

- 日 時：11月7日（金）16時00分～17時30分
- 場 所：中央学園

和歌山県出身者が中心となり設立された、メキシコ最古の日本語学校である中央学園を視察しました。メキシコ和歌山県人会役員でもある松原佳代学園長の案内で校内の見学の後、本県との教育連携に関する協議を行いました。



教育連携に関する協議の様子

日本メキシコ学院視察

- 日 時：11月8日（土）10時00分～12時30分
- 場 所：日本メキシコ学院

メキシコ最大の日系教育機関である日本メキシコ学院を視察しました。さらに、知事は、和歌山県に关心を寄せる約80名の出席者に対して、和歌山県への観光や、和歌山県での留学・就職についてPRを行いました。出席者からは、和歌山県での起業に関する相談や、和歌山県の観光情報の探し方などについての質問があり、和歌山県への高い关心が窺えました。



知事による記念講演の様子

日本人メキシコ移住あかね記念館視察

- 日 時：11月8日（土）14時45分～15時15分
- 場 所：日本人メキシコ移住あかね記念館

メキシコへの日本移民の歴史に関する資料を収蔵・展示している日本人メキシコ移住あかね記念館を視察し、移民史について理解を深めました。



視察の様子

和歌山県政トピックス

先没者慰靈碑参拝・献花

■日 時：11月8日（土）15時15分～15時30分

■場 所：日墨会館

メキシコ各地において亡くなった日系移民慰靈のために建立された先没者慰靈碑への献花を行い、困難を乗り越えてメキシコ日系人社会の地位を確立された先人の御労苦に思いを馳せました。



献花の様子

メキシコ和歌山県人会創立40周年記念式典・祝賀会

■日 時：11月8日（土）18時00分～22時00分

■場 所：日墨会館

メキシコ和歌山県人会創立40周年記念式典及び祝賀会に出席しました。式典には、和歌山県出身者及びその子孫、本清駐メキシコ日本国大使はじめ現地日系団体幹部ら約150名が出席しました。

式典中、知事は和歌山県出身者で、80歳以上の長寿者14名に対して表彰状、和歌山県との交流に貢献した功労者5名に対して感謝状を贈呈しました。



式典に続いて開催された祝賀会では、本県出身者らと訪問団との交流が行われました。

（2）アメリカ フロリダ州訪問 11月9日（日）～11日（火）

在マイアミ日本国総領事との意見交換会

■日 時：11月10日（月）12時30分～14時30分

■場 所：在マイアミ日本国総領事公邸

知事は、在マイアミ総領事主催の昼食会にて、フロリダ和歌山文化協会理事らと共に、30年にわたる姉妹県州提携に基づく交流を振り返るとともに、30周年記念事業や今後の次世代の交流について意見交換を行いました。

在マイアミ日本国総領事公邸にて



和歌山県・フロリダ州姉妹県州提携30周年記念式典

■日 時：11月10日（月）17時00分～19時00分

■場 所：フロスト・アート・ミュージアム（フロリダ国際大学内）

知事は、和歌山県・フロリダ州姉妹県州提携30周年記念式典に出席し、冒頭の挨拶で、30年にわたる交流に尽力いただいた方々に感謝を述べるとともに、次世代の相互理解を目的とする青少年交流に関する覚書に署名しました。また、同会場にて開催中の和歌山県やフロリダ州にゆかりのある展示作品を鑑賞、招待客と歓談するなど交流を行いました。

覚書締結の様子



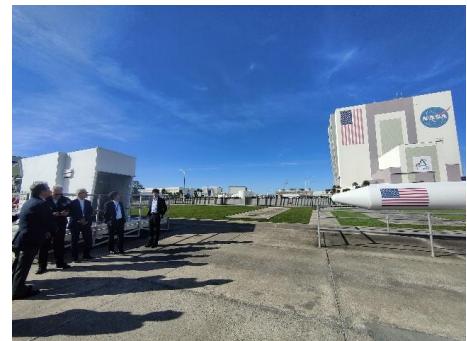
スペース・フロリダとの意見交換及びケネディ宇宙センター・ビジター・コンプレックス視察

■日 時：11月11日（火）11時00分～15時30分

■場 所：スペース・フロリダ、ケネディ宇宙センター・ビジター・コンプレックス

知事は、フロリダ州の航空宇宙産業を推進する政府機関スペース・フロリダを訪問し、宇宙産業の集積や人材育成について、ロバート・ロング CEO ら幹部とプレゼンテーションや意見交換を行いました。その後、ケネディ宇宙センター・ビジター・コンプレックスに移動し、ロケット組立・発射場などを視察しました。

ロケット組立・発射場視察の様子



●令和6年産みかんの産出額10年連続日本一！

県では、2015(平成27)年度からJAグループと連携し、光センサー選果機を活用して、一定基準以上の糖度を確保する「みかんの厳選出荷」を取り組んでいます。

2024(令和6)年産みかんは、表年まわりで着果量が確保され、糖酸のバランスが良く良食味に仕上がったことや厳選出荷の取組により市場評価も高く、高単価で取引されたことから、産出額459億円で、10年連続日本一となりました。

今後も、優良品種への改植やマルチ栽培など高品質果実生産とともに、省力化や働きやすい園地づくりを推進し、引き続き、みかんの販売単価向上を図りながら、産出額1位を維持していきます。



マルチ栽培の様子

みかんの産出額（令和6年産）

<農林水産省生産農業所得統計>

第1位 和歌山県 459億円

*令和5年産 335億円

第2位 静岡県 326億円

第3位 愛媛県 222億円

●かつらぎ町と田辺市でタウンミーティングを開催しました

2025（令和7）年10月27日にかつらぎ町、12月4日に田辺市においてタウンミーティングを開催しました。

かつらぎ町の天野では、マーケティング支援、農家民泊、農業、観光物産店、地域食堂などに携わる方々とお話をさせていただきました。過疎対策や農業、空き家活用、観光、教育など多岐にわたる分野で生の声と熱い想いを聞かせていただきました。

移住者の住まいや交流の場、農業の鳥獣害被害、観光業の担い手不足、地域食堂の後継者づくりなど、それぞれ課題や悩みを抱えながらも、日々力強く生活されている姿に、地域の活力の源は、やはり「人」だと改めて感じました。

高野・山麓地域には、柿をはじめとするフルーツ、世界に誇る高野口パイルや紀州へら竿など、唯一無二の地場産業があります。地域で頑張る「人」の力と「伝統の強み」を活かした地域づくりを、これからもしっかりと応援していきます。



参加者の皆さんと知事（かつらぎ町）



参加者の皆さんと知事（田辺市）

そして、田辺市の上秋津では、観光、農業、こども食堂、防災、NPO活動などに携わる方々と意見交換をさせていただきました。体験観光、農業の担い手確保、地域のコミュニティづくり、ライドシェアなど、頑張っておられる取組を聞かせていただきました。

それぞれ地域や分野は異なりますが、皆さん共通して地元に対する熱い想いをお持ちになり、地域を次の世代にどうやって引き継いでいくか真剣に取り組まれている姿が印象的でした。ご自分の仕事での工夫や貢献だけでなく、地域のために役立つことをしようというそのお気持ちが頼もしい限りでした。

田辺・西牟婁地域の魅力を次の世代にも伝えていく取組を、これからも応援していきます。

県としましては、今回のタウンミーティングで頂いた貴重な御意見を踏まえ、皆さんの日々の課題解決に協働して取り組んでいきます。

●企業立地等の実績について（2025(令和7)年10月下旬～1月初旬）

本県の企業立地等の取組について、先号以降の実績を御紹介します。
引き続き、本県のビジネス環境と生活環境の良さを多くの企業にPRし、本県への企業誘致を進めていきます。

株式会社くらこん

大阪府枚方市に本社を置く株式会社くらこんが、和歌山市の『コスモパーク加太』に新たに工場を建設するにあたり、進出協定を締結しました。

同社は、昆布をはじめとする海藻を中心に、日本の伝統的な健康食材を現在のライフスタイルに合った形で提供している食品メーカーです。

特に主力商品である「塩こんぶ」については、1961（昭和36）年以来50年以上愛されている商品であり、近年ではその販路は国内に限らず海外へも広がりを見せています。今回、年々増加する需要に対応すべく、生産体制の強化を目的として和歌山市に新工場を建設する運びとなりました。

■企業概要

企業名：株式会社くらこん

代表者：代表取締役社長 伝宝 啓史

設立年月：2008（平成20）年2月／ 資本金：3,000万円

売上高：65億7,400万円

従業員数：312名（正社員70名、非正社員242名）

事業内容：食料品（昆布・煮豆・簡単調理食品ほか）の加工並びに販売



■進出計画概要

進出場所：コスモパーク加太（和歌山市加太）

敷地面積：13,757m²

雇用予定：正社員14名（地元雇用12名、転入雇用2名）

投資予定：約15億円（建物、設備等）

事業内容：食料品（塩こんぶ）の加工

操業時期：2027（令和9）年4月操業開始予定



10/21 進出協定調印式にて
(左から)知事、伝宝代表取締役社長、尾花和歌山市長

ライオンケミカル株式会社

有田市に本社を置くライオンケミカル株式会社が、和歌山市の小倉工場隣接地に新たに工場を建設するにあたり、立地協定を締結しました。

同社は、蚊取り線香を製造する企業として、1885（明治18）年の創業以来培った技術で殺虫剤や洗浄剤、消臭剤など様々な家庭用品を製造し、技術面・品質管理共に数多くの顧客から評価されています。

今回、受注増加への対応のために、新工場を建設し生産能力を増強します。

■企業概要

企業名：ライオンケミカル株式会社

代表者：代表取締役社長 田中 源悟

創業年月：1885（明治18）年4月

設立年月：1939（昭和14）年4月

資本金：1億円

売上高：約110億円（2025（令和7）年11月期見込）

従業員数：298名（正社員201名、非正社員97名）

業務内容：殺虫剤・入浴剤・芳香剤・洗浄剤等の製造販売



■立地計画概要

立地場所：和歌山市小倉4-1

敷地面積：4,003.73m²

雇用予定：正社員12名（うち新規地元雇用者12名）

操業時期：2026（令和8）年9月操業開始予定



11/17 協定調印式にて
(左から)尾花和歌山市長、田中代表取締役社長、中場県商工労働部長

● 「万博のレガシーー解体と再生、未完の嘗為を考えるー」を開催します

2025（令和7）年、「いのち輝く未来社会のデザイン」を統一テーマに「日本国際博覧会（大阪・関西万博）」が開催されました。1851（嘉永4）年に圧倒的な工業力を世界に示すためロンドンで誕生した国際博覧会（以下、万博）は、参加国が自国の文化や高い技術力を発信する一大催事として今日まで世界各地で行われてきました。それは同時に、植民地問題、民族問題、環境問題など国際社会が抱える様々な矛盾と葛藤を内包してきました。万博の変遷は、19世紀から21世紀を迎えて四半世紀の現在に至る西洋近代主義のグローバル化の光の軌跡であると同時に、20世紀の2つの世界大戦に象徴される文明の影と不可分の歴史であると言えるでしょう。近年の万博では、参加者にも現代社会がはらむ数多の課題について考える姿勢が求められています。

本展は、創造と解体を繰り返す万博の特異な祝祭空間について2部構成で振り返ります。第1部【万博と日本 グローバリズムの光と影】では株式会社乃

村工藝社の博覧会コレクションを中心に、日本との関わりに重点を置き、19世紀の初期万博から1970年大阪万博開催までの歴史や会場空間の変遷をたどり、今日的視点からその意味を探ります。第2部【メタボリズムと共生 黒川紀章のEXPO'70を中心に】では「人類の進歩と調和」を統一テーマに掲げた1970年大阪万博において「メタボリズム（新陳代謝）」という建築理念をキーワードに複数のパヴィリオン設計に関わり、1990年代に当館の設計を手がけることになる建築家・黒川紀章の仕事を、今回の万博の統一テーマにも連なるその先見性と合わせて紹介します。さらに、大阪・関西万博にて和歌山ゾーンに出品されたアートワーク《トーテム》を特別展示します。



栗津潔《黒川紀章の作品〔ポスター〕》
1970年 美術出版社刊 個人蔵

万博に託された理念や付随する今日的課題にも触れる本展は、万博のレガシー（遺産）について来場者の皆さんと共に再考する機会となるでしょう。

是非、和歌山県立近代美術館にお越しください。

会期 2月14日（土）～5月6日（水・休）

開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）

休館日 月曜日（祝休日の2月23日、5月4日は開館）、2月24日

4月1日（水）～4月5日（日）は空調改修工事のため休館予定

入館料 一般600円(480円)・大学生330円(290円) * () 内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

*毎月第4土曜日（2月28日、3月28日、4月25日）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

*第1日曜日（3月1日、5月3日）は無料



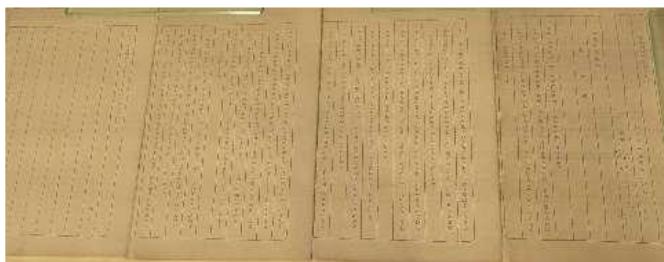
昇斎一景《元ト昌平坂聖堂ニ於テ博覧会図》1872年 乃村工藝社蔵

●冬期特別展「紀伊風土記の丘のあゆみ」を開催中です

和歌山県立紀伊風土記の丘は、特別史跡岩橋千塚古墳群及びその周辺環境を保全するとともに、県内の考古資料及び民俗資料を保存し、その活用を図ることを目的に1971（昭和46）年8月2日に開園し、2025（令和7）年で54周年を迎えました。地元出身の松下幸之助氏の寄附を受けて建設された現在の資料館（松下記念資料館）は、紀伊風土記の丘の中心施設として、多くの来館者をお迎えし、開館以来、多岐にわたる活動の場としても地域や県民の皆さんに親しまれてきました。

この度、紀伊風土記の丘再編整備事業により、資料館は改修工事のため2026（令和8）年3月31日をもって一時休館することとなり、2028（令和10）年度に新館を加えた新たな博物館（和歌山県立考古民俗博物館（仮称））として再スタートをきる運びとなりました。

本特別展では、紀伊風土記の丘の建設前夜から誕生に至る経緯、資料館の建設、そして開園後の特別史跡岩橋千塚古墳群の整備及び和歌山県内の考古資料・



松下幸之助氏から大橋県知事へ宛てた書簡【当館蔵】

民俗資料の調査研究・展示・教育普及などの博物館活動のあゆみを振り返るとともに、新たな博物館開館に向けた取組について御紹介します。

現資料館での最後の展示となります。皆さん一人ひとりの心の中にあら紀伊風土記の丘の思い出に浸りながら、是非お楽しみください。



装飾付はそう

【天理大学附属天理参考館蔵】

会期 3月1日（日）まで

開館時間 9時～16時30分（入館は16時まで）

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は次の平日）

入館料 一般200円(170円)・大学生100円(80円) * ()内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

<関連シンポジウム> 2月22日（日）13時30分～16時30分

「過去・未来・そして地域とつながる博物館になるには」

講演者・パネリスト

中村 貞史 氏（元紀伊風土記の丘 館長）

加藤 幸治 氏（武藏野美術大学 教授／元紀伊風土記の丘 学芸員（民俗学担当））

大河内 智之 氏（奈良大学文学部文化財学科 教授／元和歌山県立博物館 主任学芸員）

パネルディスカッション・モデレーター 増渕 徹（当館館長）

○会場：和歌山県立紀伊風土記の丘 資料館 ○定員：30名（要事前申込・先着順）

○参加費：資料代＋入館料

○申込方法：2月6日（金）13時～ 当館ホームページ（申込フォーム）、電話又は資料館受付

● カイロスロケット3号機が打ち上げられます！

この度、スペースワン株式会社より、カイロスロケット3号機の打上げ日時が「2月25日(水)11時～11時20分頃」と発表されました。

一昨年12月に打ち上げられた2号機では、高度110kmの宇宙空間に到達しました。今回の3号機では、その成果を踏まえ、是非、人工衛星の軌道投入を実現してほしいと思っています。

県としても、日本初、世界でも有数の民間ロケット事業を実現するために幾多の困難を乗り越えて挑戦し続けるスペースワン社の取組を、串本町・那智勝浦町や関係機関と連携して全力でサポートしていきます。

そして、スペースワン社とカイロスロケットの成功が、和歌山県全体の活性化の大きな柱となることを大いに期待しています。

なお、スペースポート紀伊周辺地域協議会では、打上げ見学イベントを開催します。詳しくは「カイロスロケット打上げ応援サイト」で御確認ください。



カイロスロケット2号機飛行の様子

応援サイト
二次元コード

● 温泉スタンプラリー等を開催中です！

日本三古湯に数えられる『白浜温泉』や日本三美人の湯とうたわれる『龍神温泉』など、様々な温泉を有する和歌山県は言わずと知れた温泉の宝庫であり、国内外から訪れる多くの方々を癒し、魅了し続けています。

こうした中、県内における温泉資源の保護と適正な利用を推進し、温泉事業の発展と公共の福祉に寄与することを目的として1990(平成2)年に設立された和歌山県温泉協会では、「寒い冬は温泉で心も体もぽっかぽかになろう！」と3月2日(月)まで「温泉スタンプラリー」を開催中です。

対象となる県内40箇所の温泉施設を宿泊又は日帰り入浴で利用すると、スタンプラリー冊子の応募ハガキにスタンプを1つもらえます。

紀北・紀中・紀南の各エリアのスタンプを1つずつ計3つ集めて応募すると、500円分のクオカードが抽選で200名様に当たります。なお、スタンプラリーの冊子は、参加温泉施設、観光案内所、道の駅等に設置しています。

詳しくは、和歌山県温泉協会のホームページを御確認ください。

さらに、県では現在「聖地リゾート！和歌山温泉めぐりキャンペーン」を実施しています。本キャンペーンでは、対象イベントを楽しんでいる様子を撮影し、Instagramに投稿することで、ペア宿泊券など豪華賞品が当たる抽選に応募できます。

「温泉スタンプラリー」も本キャンペーンの対象イベントとなっています。スタンプラリーに参加した際はぜひ写真を撮影し、Instagramに投稿してキャンペーンに応募してください。

応募方法等の詳しい内容は、和歌山県公式観光サイトを御確認ください。
この冬も是非、和歌山の温泉を満喫してください。



スタンプラリー冊子

県温泉協会 HP
二次元コード県公式観光サイト
二次元コード

●わかやまジビエフェスタ 2025–2026 を開催中です

近年、高齢化などによる狩猟者の減少や耕作放棄地の増加などから、イノシシやシカなどの野生鳥獣の生息域が拡大し、農作物への被害が全国的な問題となっています。県では、これまで野生鳥獣の被害対策や狩猟者の確保・育成のための支援に取り組むとともに、捕獲したイノシシやシカを地域の食資源として有効活用する「わかやまジビエ」を推進しています。



「わかやまジビエ」とは、和歌山県内で捕獲され、食品営業許可を得た県内施設で処理加工された野生イノシシ及びシカ肉のことです。本県では、安全で安心なジビエの提供を目的として、「わかやまジビエ処理施設衛生管理認証制度」を導入するとともに、全国に先駆けて「わかやまジビエ肉質等級制度」に取り組み、品質に見合った格付けと価格設定により、市場での信頼性確保を目指しています。



知事もおいしく頂きました

本県の自然豊かな山野で育まれたジビエは、ギュッと身が引き締まっており、噛むごとにじんわりと深い旨味が口いっぱいに広がるのが特徴で、「山のごちそう」と呼ぶにふさわしい食材です。さらに、イノシシ肉は、脂肪をエネルギーとして燃焼するために必要なビタミンB6や神経器官に働きかけるB12、滋養強壮によいと言われるタウリン等が、シカ肉は低脂質で高たんぱく、鉄分等が豊富に含まれています。

この「わかやまジビエ」の素晴らしいことを多くの方に知っていただこうと、2011(平成23)年度から毎年「わかやまジビエフェスタ」を開催しています。15回目を迎える今回は、県内飲食店・宿泊施設88店舗が参加しています。

シェフたちが腕をふるったジビエ料理を味わいに、和歌山には是非お越しください。

<わかやまジビエフェスタ 2025–2026>

開催期間：2月28日（土）まで

*店舗により提供期間は異なります。

開催場所：和歌山県内料理店（飲食店、ホテル等）88店舗

プレゼントキャンペーン：

◎期間中にモバイルスタンプラリーを開催します。参加店舗でジビエ料理を食べて、デジタルスタンプを集めた方の中から抽選で和歌山県内宿泊施設ペア宿泊券（1名様）などのプレゼントが当たります。



専用HP 二次元コード

● 2月は和歌山へ！「和歌山 Well-being Month 2026」を開催します

県では、(一社)日本ウェルビーイング推進協議会（代表理事：島田由香氏）と連携し、ウェルビーイングをテーマにしたイベント「和歌山 Well-being Month 2026」を開催します。セミナーや温泉リトリート、ワーケーション、農業・漁業などの一次産業体験、ホースコーチングなどの多彩なプログラムを通して、自分自身と向き合い、人と出会い、地域とつながる時間をつくります。

<主なイベント>

○宮崎知事登壇「ウェルビーイングセミナー」

■セミナー名：「ウェルビーイング県和歌山－移動がもたらす関係とつながり」

■日時：2026（令和8）年2月21日（土）16時00分～17時30分

■場所：熊野白浜リゾート空港

■登壇者：

斎藤 祐二 氏：日本航空株式会社 代表取締役副社長執行役員・グループ CFO

岡田 信一郎 氏：株式会社南紀白浜エアポート 代表取締役社長

宮崎 泉：和歌山県知事

(モデレーター)

島田 由香 氏：(一社)日本ウェルビーイング推進協議会 代表理事

○「地域や世代を超えてつながるキャリア教育セミナー」

県内の高校に、ウェルビーイングを体現している有識者やインフルエンサーをゲストとして迎え、働き方や生き方について地域や世代を超えて学び合うセミナーを開催します。県立田辺高等学校（田辺市）、県立熊野高等学校（上富田町）にて開催予定です。

▼「和歌山 Well-being Month 2026」公式サイト

URL: <https://wakayama-wellbeing-month.pcwjapan.com/>



公式サイト



Instagram



LINE



● 「企業版ふるさと納税」で和歌山県の取組を応援しませんか？

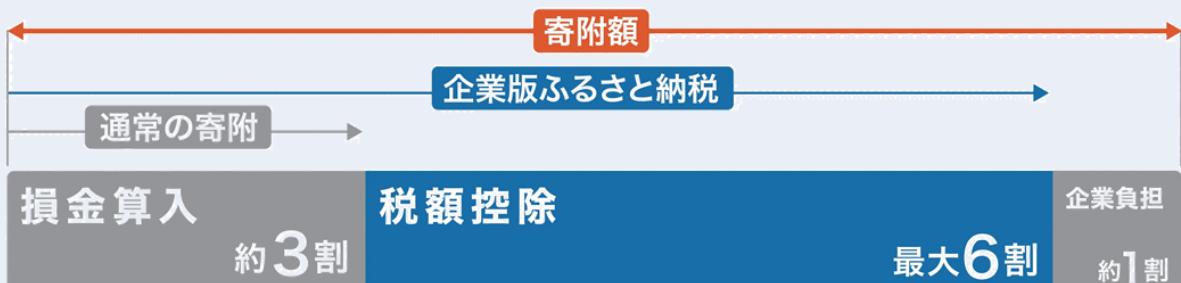
企業版ふるさと納税とは、企業の皆様が寄附を通じて地方公共団体の地方創生プロジェクトを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられるほか、様々なメリットがある仕組みです。

和歌山県では、この制度を活用し県の地方創生の取組を応援していただける企業の皆様を募集しています。

企業版ふるさと納税とは

- 「企業版ふるさと納税」は、国が認定した地域再生計画に位置付けられる地方公共団体の「地方創生プロジェクト」（*）を応援するために企業様が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。
- * 和歌山県の主な取組（2025年度）は次ページに掲載しています。
- 捐金算入による軽減効果(寄附額の約3割)を含め、最大で寄附額の約9割にあたる法人関係税が軽減され、実質的な企業様の負担が約1割まで圧縮されます。

【税軽減のイメージ】



* 本制度を活用できるのは、和歌山県外に本社がある企業様のみです。

* 1回当たり10万円以上の寄附が対象です。

* 寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

企業様のメリットについて

- 社会貢献に取り組む企業としてのPR効果が期待できます！
- 企業様と県との間で、新たなパートナーシップ構築の可能性が広がります！
- 県をはじめ、地方創生プロジェクトに関わる多様な主体との新たな関係構築の可能性が広がります！

詳細はこちらから

⇒ <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022200/d00204504.html>

お問い合わせ先：和歌山県 地域振興部 地域政策局 地域振興課 地域支援班

TEL : 073-441-2426

MAIL : e1001001@pref.wakayama.lg.jp





和歌山県の 主な取組

本県では、

「積み重ねてきた施策をさらに発展させる」とともに「時代の流れに的確に対応」し、かつ「新たなことに果敢に挑戦」することで、本県のもつ潜在力を解き放ち、力強い新たな発展を目指しています。

01 ひとを育む

- ・こども食堂への支援
- ・県立高等学校でのeスポーツ取組支援
- ・ゲームクリエイターによるコミュニティ構築支援 etc



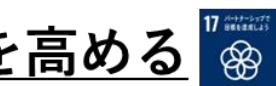
02 しごとを創る

- ・外国人材の受入整備
- ・多様で健全な森林の育成
- ・第49回全国育樹祭開催支援
- ・農林漁業と地域の持続可能性を高める取組の推進
- ・民間ロケット発射場を核とした地方創生プロジェクト etc



03 くらしやすさを高める

- ・保護収容された犬猫の返還譲渡の推進
- ・地域猫対策の推進
- ・脱炭素化に向けた取組や普及・啓発 etc



04 地域を創る

- ・二地域居住促進プロジェクト
- ・関係人口の創出事業
- etc



* 詳細なプロジェクト内容については、下記二次元コードよりご覧いただけます。

* 上記以外の取組につきましても、隨時ご相談承ります。

(電話、メールのほか、訪問対応も可能ですので、お気軽
にご連絡ください。)

* メールでの申請が可能です。（申請書は県HPよりダウンロードができます。）

●ふるさと和歌山応援寄附【わかやま未来応援型】の御案内

ふるさと納税制度は、「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として創設されました。

和歌山県では、ふるさと納税制度の原点に立ち返り、「和歌山を応援したい」「この取組を支援したい」というお気持ちから、返礼品を設けずに御寄附を頂く新たな寄附メニューとして、ふるさと和歌山応援寄附【わかやま未来応援型】を設け、2025(令和7)年4月より募集を開始しました。

従来のふるさと和歌山応援寄附は【県産品応援型】(返礼品有り)、【教育環境充実型】(返礼品無し)として引き続き募集しています。

和歌山県外にお住まいでの【県産品応援型】(返礼品有り)に13,000円以上の御寄附を頂いた方には、和歌山県の優良県産品の商品のうち、事業者の協力を得て選定した返礼品をお選びいただけます。和歌山県が誇る優良県産品を是非御堪能ください。

ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」に掲載しています。

これからも、ふるさと和歌山応援寄附に御協力いただきますようお願い申し上げます。

わかやま未来応援型



[ふるさと和歌山応援サイト](#)

検索

ふるさと
チョイス



ふるなび



ANAの
ふるさと納税



さとふる



JAL
ふるさと納税



ふるさと和歌山応援サイトの
2次元コードはこちら

わかやま
未来応援型



県産品応援型



教育環境充実型



★お問合せ・申込窓口★

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地
総務部総務管理局税務課

担当 大亦、西浦

電話 073-441-2186 (直通)

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

★お問合せ窓口★

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 松場

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

●ふるさと和歌山応援寄附を活用して行う県の取組

①わかやま未来応援型（返礼品無し）

- 地域における防災力の向上
- 和歌山県スポーツキャンプ誘致推進
- 大学生等による和歌山県内での地域貢献活動の推進
- 地域づくり団体等による関係人口創出拡大事業の推進
- eスポーツの推進による新たな若者文化の形成と地域の活性化
- デジタルクリエイティブ拠点の創出
- こどもの居場所づくり
- チャレンジドの社会参加促進
- 医療と福祉のDX推進
- 和歌山を宇宙のまちにしよう！
- 県アンテナショップ「わかやま紀州館」を活用した県産品の魅力発信
- 希少な和歌山県産ブランド和牛の認知度向上
- 和歌山県立近代美術館（MOMAW）の活動を応援し、豊かな文化を創る
- 南葵音楽文庫10周年記念事業
- 和歌山ミュージックアカデミーU18
- “脱炭素先進県わかやま”を目指す取組の推進（2025（令和7）年11月追加）

②県産品応援型

- 生涯スポーツと文化の振興
- がん対策の充実
- 犬猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用
- 南紀熊野ジオパークの推進
- 地元企業への就職を促進する奨学金返還支援
- 学校図書館や県立図書館の蔵書の充実
- わかやまの美しい海づくり
- わかやまの文化財の保護
- 大切なふるさとの森を守り育てる
- わかやまのナショナルトラスト
- わかやまの農林水産業の振興
- 子育て支援の充実
- 第49回全国育樹祭の開催支援

③教育環境充実型（返礼品無し）

- こどもたちの教育環境の充実

皆様から頂いた寄附金の成果につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」などで報告させていただきます。

*最新の情報は、主催者等へお問い合わせください。



イベント情報（2月～3月）

開催日・時期	行事名	場所	問い合わせ先
2月3日	節分祭・お焚き上げ祭 (古神札焼納祭)	日前神宮 國懸神宮 (和歌山市)	日前神宮 國懸神宮 073-471-3730
2月6日	御燈祭り	神倉神社 (新宮市)	新宮市観光協会 0735-22-2840
2月8日	針供養	淡嶋神社 (和歌山市)	淡嶋神社 073-459-0043
2月14日	水門祭	水門神社 大島漁港 (串本町)	南紀串本観光協会 0735-62-3171
3月3日	雛流し	淡嶋神社 (和歌山市)	淡嶋神社 073-459-0043
3月25日	和歌浦天満宮大祭	和歌浦天満宮 (和歌山市)	和歌浦天満宮 073-444-4769

自然・風物情報（2月～3月）

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
2月上旬～ 3月上旬	南部梅林	南部梅林 (みなべ町)	梅の里観梅協会 0739-74-3464
2月上旬～ 4月下旬	いちご狩り	かつらぎ町内観光農園	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
2月中旬	シロウオ漁始まる	広川河口 (湯浅町)	湯浅町観光協会 0737-22-3133
3月中旬	生石高原山焼き	生石高原 (紀美野町、有田川町)	生石高原観光協会事務局 073-489-5901 有田川町商工観光課 0737-22-4506
3月下旬～ 4月上旬	西山千本桜開花	西山中腹沿道 (日高町)	日高町役場 企画まちづくり課 0738-63-3806

～編集後記～

2026年がスタートしました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。年末年始のお休みが例年より長かったこともあります、ふるさと和歌山に帰省し、ゆっくりされた方も多いのではありますか。今年は新しい総合計画の初年にあたります。この計画に基づいた施策を展開することで、県民のみなさまが将来に向かって安心して希望をもって暮らしていくけるよう取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

先日、有田川町の産直市場にみかんの買い出しに行ってきました。贈答用や自宅用に大量に買い込んだ後、有田川の河原に立ち寄り、山の斜面に広がるみかん畠を眺めながら買ったばかりのみかんをのんびりと食べました。生産者さんによってそれぞれ甘みと酸味のバランスがちがうので食べ比べするのも楽しいです。

寒い日が続いていますが暦の上では間もなく立春。みなべ町や田辺市など県内各地で梅林が開園します。梅が開花する頃に梅林の近くを通ると梅の香がほのかに感じられます。見るのも良し香りも良し、もちろん味も良い和歌山の梅。「みなべ・田辺の梅システム」は2015年に世界農業遺産に認定されており、昨年8月には「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が認定されました。生産量の多さや味の良さだけではなく、自然と調和した生産システムや歴史的価値などが評価され世界に認められたことを誇りに思います。

本号も最後までご覧いただきありがとうございました。

知事室 秘書課長 魚井 慎吾



★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ではカラーの紙面を楽しんでいただけますので、是非御覧ください。

和歌山だよりに対する御意見・御感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報を御提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp



県ホームページ
二次元コード

ふるさと和歌山
応援サイト二次元コード

2026年（令和8年） NO.189

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2026



*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。